

第3節 平成30年度 資料館における展示・情報公開活動

1. 第40回企画展『大学発遺跡行き2～やまぐち時空列車の旅～』

平成30年度前期は、前年度末より吉田構内で開始された福利厚生施設新営に伴う本発掘調査に忙殺されたため、平成24年度以来の長期休館も視野に入れていたが、実施している発掘調査の速報を展示にて行うべきとの判断から、8月4日(土)の吉田地区オープンキャンパス開催日に合わせ企画展をオープンさせた。

当展示は「出土品から遺跡に誘う」をコンセプトとしており、平成21年度に開催した初回の『大学発遺跡行き』では、吉田遺跡とともに潮待貝塚(下関市)、東ノ庄神田遺跡(光市)、天王遺跡(周南市)、御屋敷山古墳(下松市)、美濃ヶ浜遺跡(山口市)、見島ジーコンボ古墳群(萩市)、多々良廃寺跡(防府市)、小周防相ヶ迫経塚(光市)を紹介した。2回目となる今回は、福利厚生施設新営に伴う調査にて検出された竪穴式住居跡の出土資料とともに、綾羅木郷遺跡(下関市)、六連島音次郎遺跡(下関市)、筏石遺跡(下関市)、月崎遺跡(宇部市)、筥倉古墳(山口市)、上野光安寺跡(萩市)の紹介を行った。

本来であれば遺跡地の現況写真を撮影し、見学時の注意などとともに掲示するのであるが、残念ながらその時間を設けることができなかつたため、遺跡地へのルートを紹介するに止まった。

展示完成時の記録写真を撮影することもなく、会期中一度も展示室の観覧風景撮影を行えなかつたため、手元に残るのはポスター・チラシデータと解説パネルデータのみである(写真20・21)。明らかに準備不足であり、突貫作業による展示となったが、10月27日(土)までの会期中、520名もの方々に観覧いただいた。

観覧者からは、「現在発掘中の吉田遺跡が印象に残った」「破片を組み合わせると土器を復元する技術に驚いた」「一緒に発掘作業をしてみたい」などの声が寄せられた。平成30年の夏は、山口市が計測史上最高気温(38.8℃)を記録するなど、記憶にない猛暑が続く中で、杜漏な内容ながら無事企画展を開催することができ、発掘調査も完遂することができたのは、上記のような声援が届けられていたからに他ならない。ご支援いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げたい。



写真 20 企画展ポスター



写真 21 月崎遺跡解説パネル

2. 山口県大学ML連携特別展『ひらく～山口大学吉田キャンパス開拓史～』

平成29年度は、山口県内の大学博物館 (Museum) と図書館 (Library) による広域連携事業の5周年を記念して、山口県立山口博物館にて初の合同展示が開催された。平成30年度はこれまで通り、共通テーマに沿って参加館が各大学で学術資料や教育研究成果を公開することとなった。

平成30年度の共通テーマは「ひらく」に決定された。過去の2年の共通テーマは「つなぐ」「はぐくむ」と推移しており、考古学を専門とする当館としては焦点の合わせづらいワードが続いているが、多数の館が参加する上では、これもやむを得ない措置なのであろう。

当該年度、吉田構内中央部において古墳時代中期の集落跡が新たに発見されたことを受けて、当館は「山口大学吉田キャンパス開拓史」と副題を付し、現在のキャンパス風景から弥生時代までの土地利用の移り変わりを考察する、吉田遺跡の通史的な資料展示を企画した。

展示構成は、①現在の吉田キャンパス航空写真 ②本学統合移転直前の吉田地区航空写真 ③近世の吉田村(地下上申絵図「吉田村」清図(画像)や近世遺構の分布、陶磁器などの遺物) ④中世(吉田遺跡の屋敷跡や井戸、掘立柱建物群と瓦質土器、土師器などの遺物) ⑤古代(総柱建物群や埋没谷、木簡や墨書須恵器、柱根などの古代官衙関連遺物) ⑥古墳時代(竪穴式住居跡群や円筒埴輪採取地点、初期須恵器やミニチュア土器、滑石製模造品などの遺物)、⑦弥生時代(集落と河川の位置関係や水稻耕作地の推定、弥生土器や各種磨製石器などの遺物)とし、再び現在のキャンパス景観に立ち返る導線とした。また、昭和41年(1966)以降の調査風景画像をスライドショーにて多数上映することにより、遺跡ばかりでなく、本学による吉田キャンパス開発史も表現した。

11月4日(日)から翌年2月1日(金)までの約2ヶ月の会期中、282名の方々に観覧いただいた。観覧者からは、「身近にこんな貴重な資料が展示されているとは知りませんでした。もっと多くの方が来館されると良いと思います」「統合移転前の吉田の展示を見たとき、移転前のキャンパスの場所がどのような様子であったのか気になりました。ぜひ、それについても展示していただけると、より一層好奇心が増します」などの声が寄せられた。

本来、遺跡に立地する博物館では、通史的展示は常設すべきものであろうが、約35㎡の当館展示室では望むべくもなく、忸怩たる思いで数年に一度、企画展として開催する状況が続いている。



写真 22 展示の様様



写真 23 団体見学での展示解説

3. 第7回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催

平成30年度も例年どおり、当館の共催により、当館展示室にて本学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』が開催された。前期・後期の2部構成となっており、前期展は平成31年3月18日(月)から令和元年5月17日(金)まで、後期展は5月27日(月)から7月19日(金)までの会期で開催された。当館はこの数年、学術資産継承事業として吉田遺跡出土木製品の保存処理と樹種同定を行っているが、予算の限られる中での継続事業となっており、平成20・24年度に出土した木製品の処理が完了していない状況であったことから、前年度に引き続き、前期展にて保存処理事業を終えた吉田遺跡出土古代官衙関連木製品を出展することになった。

前期展では、典籍資料として『水滸記訳本』2巻3冊 江戸期写など(総合図書館)、鉱物・岩石資料として南極の岩石(理学部地球科学標本室)、商品資料として萩焼深川窯(長門市)(経済学部商品資料館)が、後期展では文書資料として戦前期収集資料(地域:朝鮮)(経済学部東亜経済研究所)、考古資料として山口県出土経塚関連資料「経筒・和鏡」(人文学部)、鉱物資料として長登鉱山資料(美祢市)(工学部学術資料展示館)、生物標本資料としてタヌキ・ニホンウサギ・カヤネズミ・アカネズミ・カワネズミなど山口県の哺乳類交連骨格標本(共同獣医学部)、美術資料として鎌田恵務作品(教育学部美術教育教室)が出展された。

前期展は4月20日(土)14時より、後期展は6月1日(土)14時よりミュージアムトーク(展示解説)を開催した(写真24・25)。前期展では616名、後期展では446名、総数1,062名もの方々に観覧いただいた。観覧者からは「統一されたテーマに合う自然・考古・文献資料の展示が見たいです」「今回は「お宝」盛り合わせということだと思いますが、やはり一つのテーマでストーリー性があった方が良いでしょうな気がします」などの提案のほか、「内容が素敵なので、もっと来館を促すアピールがあれば良いと思った。もったいない」という意見もあった。

個人的には『宝山の一角』はやや慣例化しているようにも感じられるが、それは運営者側の感覚であり、毎年の入館者数が示すように需要が減少しているわけではない。事業定着期に生ずる情操の一種と信じたい。いずれにせよ、相当額を執行している全学的事業の可視化は、説明責任を果たす上では必須であることから、当館としても全面的にその活動を支援していきたい。



写真 24 前期ミュージアムトークの様相



写真 25 後期ミュージアムトークの様相

4. 平成30年度刊行物

1. 『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』

平成30年度末に、平成26年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行している。発掘調査概報としては、本発掘調査1件(吉田遺跡:動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事)、予備発掘調査1件(山口大学医学部構内遺跡:基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事)、工事立会12件(吉田遺跡7、山口大学医学部構内遺跡2、山口大学工学部構内遺跡1、御手洗遺跡2)の成果が報告されている。

館の活動報告としては、展示・情報公開活動として3件の展示事業と1件のイベント参加、3冊の刊行物を、社会教育活動として1件の公開授業を報告している。そのほか、横山と吉田生物研究所による「吉田遺跡(動物医療センターリニアック室)出土金属製品成分分析調査」、石丸恵利子氏による「吉田遺跡(公共下水道布設に伴う発掘調査)出土の動物遺存体」と題する付篇を所収している。

2. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第29号『てらこや埋文』

当館の広報誌であり、速報性のある紙媒体メディアとして重要な役割を果たしている。

巻頭頁は上記の『埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』の刊行報告を、2頁から3頁には平成29年度末から平成30年度にかけて実施した福利厚生施設新営に伴う吉田遺跡本発掘調査の略報を、4頁から5頁には当該年度に開催した展示の報告を、6頁には山口県立山口博物館との共済事業「講座 古代ウォーク」を、7頁には「資料館この一品」として福利厚生施設新営に伴う本発掘調査にて4号竪穴式住居跡から出土した初期須恵器(古墳時代中期中葉)の紹介記事を、巻末頁には当館の当該年度活動歴を掲載した。

『埋蔵文化財資料館年報』は、山口大学学術機関リポジトリ「YUNOCA」(<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/>)および、奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」(<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/>)にて閲覧可能であり、広報誌『てらこや埋文』は「山口県地域学リポジトリ」(<https://knowledge.lib.yamaguchi-u.ac.jp/ja/>)にて閲覧可能である。



写真 26 平成 30 年度埋蔵文化財資料館刊行物